



緑丹会 LETTER vol.6

兵庫医科大学緑樹会兵庫北部支部会会報

緑丹会会長だより

～丹波篠山市医師会の紹介～

片山 覚

丹波篠山市医師会会長・S54年卒・卓球部



本年6月に丹波篠山市医師会会長に選出されました。A会員が36名、B会員が36名という小さな医師会です。兵庫医科大学ささやま医療センターからは15名が会員となっていていただきます。兵庫医科大学卒業の会員は17名で、内訳はささやま医療センターが7名、岡本病院が3名、診療所が7名と、同窓医師が最も多い状況となっています。会の活動は月1回の役員会と学校医、産業医、感染対策、医療介護連携などの地域医療の出務を分担して行っています。当医師会独自の特徴のある取り組みとしては、Personal Health Record:PHRの地域実装実証事業に取り組んでいます。PHRは自らの健康に関する情報を収集・管理し、クラウドで予防、医療、介護の幅広い範囲での活用が期待されて取り組みが始まっていますが、まだ社会実装として実現できている自治体はまだありません。実装して「どこでもMY病院」を実現し、先進的な地域医療を学べる地域作りにつながると考えています。

医師会活動を通じて、丹波篠山市が地域医療の学びの優れたフィールドとなり、母校にも貢献していきたいと考えています。

開業報告

岩倉 亮

いわくらクリニック院長・H25年卒 競技スキー部



皆様はじめまして、平成25年度卒業の岩倉亮と申します。この度、令和6年8月、丹波篠山市にて『いわくらクリニック』を開院致しました。学生時代は、競技スキー部や水泳部、ワンダーフォーゲル部に所属し、学生時代を謳歌していました。卒後は兵庫医科大学病院で臨床研修を終え、同院整形外科学教室に入局致しました。レジデントの頃に勤務したささやま医療センターは、私の出身地の丹波市から近く、地元の地域医療に貢献できるやりがいを感じながら、整形外科の基礎となる多くを学ばせて頂きました。地域の方々に笑顔で健康に暮らして頂くために、少しでもお役に立てればと思っています。当クリニックは、妻（兵庫医科大学平成24年度卒）が精神科・心療内科を担当しております。夫婦ともに協力し、地域の方々に愛されるクリニックなれるよう、精進して参ります。最後に緑樹会と兵庫医科大学の益々の発展をお祈り申し上げます。

<クリニック情報> 令和6年8月開業

いわくらクリニック

診療科目：整形外科、リハビリテーション科、精神科、心療内科

所在地：〒669-2335 兵庫県丹波篠山市乾新町98

TEL：0795-54-1533 URL：<https://iwakura-clinic-sasayama.com/>



～兵庫医科大学ささやま医療センターでの新たな一歩～

菅原 政貴

兵庫医科大学 ささやま医療センター 内科
H20年卒・剣道部（全米剣道連盟 剣道三段）

このたび、2024年4月1日に兵庫医科大学ささやま医療センター 内科講師として着任いたしました菅原政貴と申します。

私はH20年(2008)に兵庫医科大学を卒業し、国立病院機構大阪医療センターで初期研修を修了し、洛和会音羽病院心臓内科でのレジデンシーを経て、2012年に兵庫医科大学 循環器内科に入局しました。その後2年間の米国ピッツバーグ大学の留学や外部出向を経て、2022年に帰局して現在に至ります。

私は長らく心不全、弁膜症診療、心エコー図学を専門に研鑽を積んでおります。これまで10年以上にわたり、大学病院や高次医療機関で最先端の治療や技術に触れてきました。そのため、当院で唯一の常勤循環器医としての異動は新たな挑戦と捉えています。最新・最先端の知識を持ちつつ、限られた環境で最大限工夫して質の高い医療を提供することに情熱を燃やしています。

私が診療の軸としている心不全の症状は労作時息切れです。この息切れの鑑別には、心不全や呼吸不全のみならず、代謝、筋骨格的アプローチ、心理社会的アプローチが必要です。最新の心不全診療のトレンドである運動負荷カテテル検査は当院では実施できませんが、工夫すれば運動負荷心エコー図検査は可能ですし運動のみならず下肢挙上やバルサルバ負荷なども駆使して病態のあぶり出しから医療を展開することもできます。また、心不全は疾患特性上高齢者に多く、心臓以外の併存症も多いです。心臓以外の領域も広く診て、全人的な循環器診療を提供することを目指しています。

私の趣味は留学中に覚えたアメフト観戦で、推しのチームはピッツバーグ・スティーラーズです。このチームはスティールカーテンと呼ばれる高いディフェンス力とシーズンを負け越さないマイク＝トムリン監督の名采配が魅力です。2024年シーズンは、昨シーズンオフにシアトルシーホークスで全米制覇の経験のあるベテランQB ラッセル＝ウィルソンと、シカゴベアーズで先発QBとして活躍しまだNFL3年目でフレッシュなジャスティン＝フィールズが加入して戦力強化が予想され非常に楽しみです。今回のチームのQB強化について、チーム首脳陣はジャスティン＝フィールズの成長に期待して勝ち癖を知っているラッセル＝ウィルソンを指導教官としてもってきたのかと拝察しております。このようなチームの強化に倣い、私も当センターで選手兼指導教官として若手医師の育成に力を入れていきたいと考えています。

丹波篠山市には学生実習のときにお世話になって以来、約20年ぶりに戻ってきました。兵庫医科大学ささやま医療センターは、前身の国立篠山病院も含めて長らく地域の中核病院として重要な役割を果たしてきました。これからも地域の方々に愛される病院であり続けるために、一生懸命診療いたしますので、緑丹会の先生方にご指導賜りますようお願いいたします。





～ささやま医療センターでの地域研修の質向上プロジェクト～

鈴木智大

兵庫医科大学ささやま医療センター
リハビリテーション科/総合診療科

H28年卒 バスケットボール部/軽音楽部/ボランティア部

縁あって、2022年度よりささやま医療センターのリハビリテーション科と総合診療科でお世話になっております鈴木智大と申します。

当院では、毎月8人程度初期研修医の地域研修を受け入れています。大学病院で1年目の研修を受けた研修医にとっては、病歴聴取や身体診察、カルテ記載の経験が少ない中で、いきなり業務の中心に立たされる環境です。今後大学病院で臓器別専門医を目指す研修医にとって、当院での地域研修は非常に重要な価値を提供できる機関であると感じ、教育活動に取り組んでいます。外部のfaculty developmentで学びながら、当院での教育に応用し、今年度からは総合診療科のドクターを中心に『地域研修の質向上プロジェクトチーム』を立ち上げ、教育の質向上、診療の質向上、医療安全の向上を目指しています。将来的には、当院で研修を受けた研修医が自身の専門外であっても適切に問題に気がつくことができ、適切な場に相談をすることができる基礎になればと思っています。また、病だけではなく人を見られるような医師に、地域の病院や診療所の視点も持った臓器別専門医に育っていけばなぁと思っています。そのための第一歩として、『主治医として病棟患者さんに関わることができる』ことを一番の目標に教育カリキュラム開発に取り組んでいます。現在は主に研修医のオリエンテーション、振り返りに取り組んでいますが、2025年度には、研修医の到達点の評価・フィードバック、プログラム基幹病院との連携にまで形にできればと思っています。

ささやま医療センターは、病院規模・リハビリテーションチームの質の高さ・スタッフのレベルの高さからコミュニティホスピタルとして真価を発揮できる可能性を秘めているのではないかと感じています。教育のみならず、急性期～緩和、在宅診療、小児～高齢者まで幅広いみる家庭医療の実践、地域活動などマンパワーがあれば活動できるフィールドは広がっていると思います。興味のある先生方は是非ささやま医療センターにいらしてください！



ささやまOB通信 “丹波篠山いいところ発見”



～ささやま医療センターでの恩師との出会いについて～

辻翔太郎

辻外科リハビリテーション病院理事
兵庫医科大学 整形外科 非常勤講師
H23卒・ヨット部/ゴルフ部

私は平成23年卒業後、平成25年整形外科学教室に入局し平成26年～平成30年までささやま医療センターの常勤として勤務し、その後も令和4年まで週1回骨粗鬆症外来をしていました。

ささやま医療センターではたくさんの出会いがあり私の医師としての礎がここで形成されたと私自身思っております。出会いですが、まずなんといっても楊鴻生先生です。楊先生は当時副院長兼整形外科部長、大学では骨代謝疾患の専門外来をされており、私が整形外科の中で専門をどうするか悩んでいた時にサルコペニアって知ってる？骨粗鬆症って興味ある？と話してくださり、楊先生によっておのずと私自身の進む道が決まっていきました。楊先生は当時全く話題になっていなかったフレイルなどにいち早く着目し、研究と学会発表させて頂き、国際学会にも採択され一緒に海外に行ったりしました。今では楊先生の後、大学の骨代謝外来を引き継ぎ、私が楊先生にした頂いた恩を後輩に返すべく2人の大学院生の指導をしております。

次に岡山 明洙先生です。ご高齢の方のADLをいかに上げるか考えていく中で膝痛、股関節痛にどう向き合うかはとても重要であり、その解決法の1つとして岡山先生に人工関節置換術を教えて頂きました。岡山先生は常に新しいことを学んで来いとおしゃって下さり、海外への手術研修会にも参加させてくれました。こういった手術に真剣に向き合った事が私の今の診療への姿勢を形成したと思っています。

また現在兵庫医科大学 総合診療内科 主任教授の新村健先生にも、とてもお世話になりました。私自身、楊先生に骨粗鬆症やフレイルを教わり外来で地道に診療・研究しておりましたが、新村先生と出会いフレイルについての大規模住民コホート研究を共同ですることになりました。この研究は私の学位論文にも繋がり、兵庫医科大学 大学院助成金や第4回緑樹会学術奨励賞、兵庫医科大 整形 Academic Awards 基礎部門 最優秀賞を獲得するなど結果を得ることが出来ました。今でもこの研究は継続しており、研究費獲得のためクラウドファンディングなど新村先生の行う新しいチャレンジと一緒にする事でたくさんの刺激をもらっています。この他にも経営について興味を持つきっかけを頂いた太城 力良先生（当時ささやま医療センター院長であり現兵庫医科大学 理事長）、リハビリについて教えて頂いた内山 侑紀先生（現リハビリ科 准教授）など挙げればきりがありません。

最後に、この記事を読んでいる後輩の先生方いらっしゃれば伝えたい事があります。私は丹波篠山市に4年間住み、のどかさ、祭りの楽しさ、人の温かさに触れ、この地域の良さを感じ、ささやま医療センターで健康寿命の延伸に携わる地域医療を学びました。ただそれだけではなく、私はこのささやま医療センターで大学病院や都心の市民病院の先生方に負けない研究を行い、国際学会での発表や英文の論文を作る事ができ、私だけでなく後輩もこのささやま医療センターでの研究で学位をとろうとしています。丹波篠山市は高齢化率が日本の15年後を推移する地域であるため、ここでのデータは日本の未来に有用な可能性を秘めています。そのため、ささやま医療センターに赴任した後輩の先生方は都心とは違うこの環境を色々な側面から楽しんでもらえればと思います。

Dr. Miyawaki ささやまフォトコラム



緑丹会副会長 宮脇 淳志
(兵庫医科大学ささやま医療センター副院長・H3年卒・写真部)

篠山の夏はデカンショ祭りで最高潮を迎えます。篠山城前には沢山の連が集合し、それぞれの踊りを競い合います。子供は夜店を回って歓声を上げ、大人は久しぶりに会う家族、友人と語らい楽しい夏の思い出となります。

そして夏休みが終わる頃、篠山は黄金の実りに覆われます。

～編集後記～

暑かった夏も終わりが近づいています。毎日こうも暑いと、早く涼しくならないかと切に思うものですが、いざ病院前の田んぼの稲穂をみると（宮脇先生写真参照）、「ああ、夏も終わってしまうのか。。。」と、なんだか寂しく思う今日この頃です。さて、今号はささやま医療センターに新たに加わった、スマートでイケメンなんだけど優しさと人情味あふれる菅原先生、ささやま研修PGリーダーであり研修医の優しいお兄さんである鈴木先生にご寄稿いただきました。OB通信には、整形外科の辻先生よりささやま愛溢れるご寄稿を頂きました。また、岩倉先生の篠山市での新規ご開業、片山会長の篠山医師会長就任、と話題が盛りだくさんのレターとなっています！

緑丹会事務局 中山真美
(兵庫医科大学ささやま医療センター総合診療科・H9年卒・硬式庭球部)



兵庫医科大学同窓会

緑樹会